

1 「窓」から風が吹きこんでく  
る

二 「誠」実な人

三 美しく「装」ってみる

四 「純」粋な水

五 一「寸」法師とおひめさま

六 「遺」書を残す

--	--	--	--	--	--

一 「まど」からかぜがふきこん  
でくる

二 「せい」じつなひと

三 うつくしく「よそお」ってみ  
る

四 「じゆん」すいなみず

五 いっ「すん」ぼうしとおひめ  
さま

六 「い」しよをのこす

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
「い」書を残す	一「すん」法師とおひめさま	「じゅん」粹な水	美しく「よそお」ってみる	「せい」実な人	「まど」から風が吹きこんでくる

六	五	四	三	二	一
「い」書を残す	「せい」実な人	「まど」から風が吹きこんでくる	一「すん」法師とおひめさま	「じゅん」粹な水	美しく「よそお」ってみる

1 車「窓」から景色をながめる

2 「誠」意をもって事にあたる

3 服「装」を整える

4 「純」金でできたかんむり

5 着物の「寸」法を測る

6 「遺」失物を探す

--	--	--	--	--	--

一 しゃ「そう」からけしきをながめる

二 「せい」いをもってことにあたる

三 ふく「そう」をととのえる

四 「じゅん」きんでできたかんむり

五 きものの「すん」ぼうをはかる

六 「い」しつぶつをさがす

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
「い」失物を探す	着物の「すん」法を測る	り 「じゅん」金でできたかんむ	服「そう」を整える	「せい」意をもって事にあたる	る 車「そう」から景色をながめ

六	五	四	三	二	一
「い」失物を探す	る 「せい」意をもって事にあた	る 車「そう」から景色をながめ	着物の「すん」法を測る	り 「じゅん」金でできたかんむ	服「そう」を整える

1 小学校の同「窓」会が開かれ  
る

二 忠「誠」を誓う

三 仮「装」行列を見る

四 「純」白のドレス

五 「寸」時をおしんで働く

六 古代の「遺」跡

--	--	--	--	--	--

一 小学校のどう「そう」かいが  
ひらかれる

二 ちゅう「せい」をちかう

三 か「そう」ぎょうれつをみる

四 「じゅん」ぱくのドレス

五 「すん」じをおしんではたら  
く

六 こだいの「い」せき

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
古代の「い」跡	「すん」時をおしんで働く	「じゅん」白のドレス	仮「そう」行列を見る	忠「せい」を誓う	小学校の同「そう」会が開かれる

六	五	四	三	二	一
古代の「い」跡	忠「せい」を誓う	小学校の同「そう」会が開かれる	「すん」時をおしんで働く	「じゅん」白のドレス	仮「そう」行列を見る

1 出「窓」のある家

2 病人を「誠」心「誠」意看病する

3 部屋の内「装」

4 「純」毛の背広

5 一「寸」の虫にも五分のたましい

6 「遺」族年金

一 で「まど」のあるいえ

二 病人を「せい」しんせいいかんびようする

三 へやのない「そう」

四 「じゆん」もうのせびろ

五 いっ「すん」のむしにもごぶのたましい

六 「い」ぞくねんきん

六	五	四	三	二	一
「い」族年金	一「すん」の虫にも五分のた ましい	「じゅん」毛の背広	部屋の内「そう」	病人を「せい」心せい意看病す る	出「まど」のある家

六	五	四	三	二	一
「い」族年金	病人を「せい」心せい意看病 する	出「まど」のある家	一「すん」の虫にも五分のた ましい	「じゅん」毛の背広	部屋の内「そう」



六	五	四	三	二	一
〔遺〕書を残す	一〔寸〕法師とおひめさま	〔純〕粋な水	美しく〔装〕ってみる	〔誠〕実な人	〔窓〕から風が吹きこんでくる

六	五	四	三	二	一
〔い〕しよをのこす	いっ〔すん〕ぼうしとおひめさま	〔じゅん〕すいなみず	うつくしく〔よそお〕ってみる	〔せい〕じつなひと	〔まど〕からかぜがふきこんでくる

六	五	四	三	二	一
「い」書を残す	一「すん」法師とおひめさま	「じゅん」粹な水	美しく「よそお」ってみる	「せい」実な人	「まど」から風が吹きこんでくる

六	五	四	三	二	一
「い」書を残す	「せい」実な人	くる 「まど」から風が吹きこんで	一「すん」法師とおひめさま	「じゅん」粹な水	美しく「よそお」ってみる

1 車「窓」から景色をながめる

二 「誠」意をもって事にあたる

三 服「装」を整える

四 「純」金でできたかんむり

五 着物の「寸」法を測る

六 「遺」失物を探す

--	--	--	--	--	--

一 しゃ「そう」からけしきをながめる

二 「せい」いをもってことにあたる

三 ふく「そう」をととのえる

四 「じゆん」きんでできたかんむり

五 きものの「すん」ぼうをはかる

六 「い」しつぶつをさがす

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
「い」失物を探す	着物の「すん」法を測る	り 「じゅん」金でできたかんむ	服「そう」を整える	「せい」意をもって事にあたる	車「そう」から景色をながめる

六年
----

二十五集六 漢字を使って文章を作ろう

六	五	四	三	二	一
遺	寸	純	装	誠	窓

1 食堂の「従」業員

二 「疑」問に答える

三 古い机を「処」分する

四 「皇」太子が結婚する

五 ロケットを發「射」する

六 国会を「延」長する

--	--	--	--	--	--

一 しよくどうの「じゅう」ぎよ  
ういん

二 「ぎ」もんにとたえる

三 ふるいつくえを「しよ」ぶん  
する

四 「こう」たいしがけっこんす  
る

五 ロケットをはっ「しゃ」する

六 こっかいを「えん」ちようす  
る

--	--	--	--	--	--

1 食堂の「じゅう」業員

二 「ぎ」問に答える

三 古い机を「しよ」分する

四 「こう」太子が結婚する

五 ロケットを發「しや」する

六 国会を「えん」長する

--	--	--	--	--	--

一 国会を「えん」長する

二 「ぎ」問に答える

三 食堂の「じゅう」業員

四 古い机を「しよ」分する

五 「こう」太子が結婚する

六 ロケットを發「しや」する

--	--	--	--	--	--

月 日

二十六集二 使い方二

六年

1 仕事に「従」事する

二 あやしいと「疑」う

三 傷の「処」置をする

四 修学旅行で「皇」居へいく

五 弓で鳥を「射」る

六 遠足を「延」期する

--	--	--	--	--	--

二十六集二 練習一

一 しごとに「じゅう」じする

二 あやしいと「うたが」う

三 きずの「しよ」ちをする

四 しゅうがくりよこうで「こう」きよへいく

五 ゆみでとりを「い」る

六 えんそくを「えん」きする

--	--	--	--	--	--

1 仕事に「じゅう」事する

二 あやしいと「うたが」う

三 傷の「しよ」置をする

四 修学旅行で「こう」居へいく

五 弓で鳥を「い」る

六 遠足を「えん」期する

--	--	--	--	--	--

一 遠足を「えん」期する

二 あやしいと「うたが」う

三 仕事に「じゅう」事する

四 傷の「しよ」置をする

五 修学旅行で「こう」居へいく

六 弓で鳥を「い」る

--	--	--	--	--	--



1 「従」 来からの決まり

二 質「疑」 応答

三 ごみの「処」 理場

四 天「皇」 誕生日

五 注「射」 は嫌いです

六 金の「延」 べ棒

--	--	--	--	--	--

一 「じゅう」 らいからのきまり

二 しつ「ぎ」 おうとう

三 ごみの「しよ」 りじょう

四 てん「のう」 たんじょうび

五 ちゅう「しゃ」 はきれいです

六 きんの「の」 べぼう

--	--	--	--	--	--

1 「じゅう」 来からの決まり

二 質「ぎ」 応答

三 ごみの「しよ」 理場

四 天「のう」 誕生日

五 注「しや」 は嫌いです

六 金の「の」 べ棒

--	--	--	--	--	--

一 金の「の」 べ棒

二 質「ぎ」 応答

三 「じゅう」 来からの決まり

四 ごみの「しよ」 理場

五 天「のう」 誕生日

六 注「しや」 は嫌いです

--	--	--	--	--	--

1 年をとるに「従」って柔和に  
なる

二 「疑」わしきは罰（ばつ）せず

三 善「処」します

四 ナポレオンは「皇」帝になつ  
た

五 熊を「射」殺する

六 道路を「延」ばす

--	--	--	--	--	--

一 としをとるに「したが」って  
にゆうわになる

二 「うたが」わしきは罰（ばつ）  
せず

三 ぜん「しよ」します

四 ナポレオンは「こう」ていにな  
った

五 くまを「しゃ」さつする

六 どうろを「の」ばす

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
道路を「の」ばす	熊を「しゃ」殺する	ナポレオンは「こう」帝にな った	善「しよ」します	「うたが」わしきは罰（ばつ） せず	年をとるに「したが」って柔 和になる

六	五	四	三	二	一
熊を「しゃ」殺する	ナポレオンは「こう」帝にな った	善「しよ」します	年をとるに「したが」って柔 和になる	「うたが」わしきは罰（ばつ） せず	道路を「の」ばす

1 食堂の「従」業員

二 「疑」問に答える

三 古い机を「処」分する

四 「皇」太子が結婚する

五 ロケットを發「射」する

六 国会を「延」長する

--	--	--	--	--	--

一 しよくどうの「じゅう」ぎよ  
ういん

二 「ぎ」もんにとたえる

三 ふるいつくえを「しよ」ぶん  
する

四 「こう」たいしがけっこんす  
る

五 ロケットをはっ「しゃ」する

六 こっかいを「えん」ちようす  
る

--	--	--	--	--	--

1 食堂の「じゅう」業員

二 「ぎ」問に答える

三 古い机を「しよ」分する

四 「こう」太子が結婚する

五 ロケットを發「しや」する

六 国会を「えん」長する

--	--	--	--	--	--

一 国会を「えん」長する

二 「ぎ」問に答える

三 食堂の「じゅう」業員

四 古い机を「しよ」分する

五 「こう」太子が結婚する

六 ロケットを發「しや」する

--	--	--	--	--	--

1 仕事に「従」事する

二 あやしいと「疑」う

三 傷の「処」置をする

四 修学旅行で「皇」居へいく

五 弓で鳥を「射」る

六 遠足を「延」期する

--	--	--	--	--	--

一 しごと「に」 「じゆう」 じする

二 あやしいと「うたが」 う

三 きずの「しよ」 ちをする

四 しゆうがくりよこうで「こう」  
きよへいく

五 ゆみでとりを「い」る

六 えんそくを「えん」 きする

--	--	--	--	--	--

1 仕事に「じゅう」事する

二 あやしいと「うたが」う

三 傷の「しよ」置をする

四 修学旅行で「こう」居へいく

五 弓で鳥を「い」る

六 遠足を「えん」期する

--	--	--	--	--	--

二十六集六 漢字を使って  
文章を作ろう

一 従

二 疑

三 処

四 皇

五 射

六 延

--	--	--	--	--	--



1 作「詞」と作曲

2 内「閣」総理大臣

3 西インド「諸」島

4 魚の「骨」

5 一「尺」は約三十センチです

6 「我」を忘れる

--	--	--	--	--	--

一 さく「し」とさつきよく

二 ない「かく」そうりだいじん

三 にしインド「しよ」とう

四 さかなの「ほね」

五 いっ「しゃく」はやくさんじ  
ゆっセンチです

六 「われ」をわすれる

--	--	--	--	--	--

1 作「し」と作曲

2 内「かく」総理大臣

3 西インド「しよ」島

4 魚の「ほね」

5 一「しやく」は約三十センチ  
です

6 「われ」を忘れる

--	--	--	--	--	--

一 「しやく」は約三十センチ  
です

二 「われ」を忘れる

三 内「かく」総理大臣

四 魚の「ほね」

五 西インド「しよ」島

六 作「し」と作曲

--	--	--	--	--	--

1 物や人などの名前を名「詞」という

二 金「閣」寺

三 「諸」外国を旅行する

四 右手をスキーで「骨」折する

五 百メートルの巻「尺」

六 「我」流で勉強する

六年

一 ものやひとなどのなまえをめい「し」という

二 きん「かく」じ

三 「しよ」がいこくをりよこうする

四 みぎてをスキーで「こつ」せつする

五 ひやくメートルのまき「じやく」

六 「が」りゆうでべんきようする

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
「が」流で勉強する	百メートルの巻「じゃく」	右手をスキーで「こつ」折する	「しよ」外国を旅行する	金「かく」寺	物や人などの名前を名「し」という

六	五	四	三	二	一
物や人などの名前を名「し」という	「しよ」外国を旅行する	右手をスキーで「こつ」折する	金「かく」寺	「が」流で勉強する	百メートルの巻「じゃく」

1 動作を表すことばを動「詞」という

二 「閣」議の了承を得る

三 ヨーロッパ「諸」国

四 遺「骨」を墓に納める

五 昔は長さは「尺」を単位にした

六 「我」は海の子白波の

--	--	--	--	--	--

一 どうさをあらわすことばをどう「し」という

二 「かく」ぎのりようしよをえる

三 ヨーロッパ「しよ」こく

四 い「こつ」をはかにおさめる

五 むかしは長さは「しやく」をたんいにした

六 「われ」はうみのこしらなみの

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
「われ」は海の子白波の	昔は長さは「しゃく」を単位にした	遺「こつ」を墓に納める	ヨーロッパ「しよ」国	「かく」議の了承を得る	動作を表すことばを動「し」という

六	五	四	三	二	一
動作を表すことばを動「し」という	ヨーロッパ「しよ」国	遺「こつ」を墓に納める	「かく」議の了承を得る	「われ」は海の子白波の	昔は長さは「しゃく」を単位にした

1

様子を表すことばを形容【詞】  
という

松本城の天守【閣】

おあつまりの【諸】先生がた

マンモスの【骨】

だいくさんは曲【尺】をつか  
う

【我】が家へ帰る

--	--	--	--	--	--

一

様子をあらわす言葉をけいよ  
う【し】という

まつもとじょうのてんしゆ【か  
く】

おあつまりの【しよ】せんせ  
いがた

マンモスの【ほね】

だいくさんはかね【じやく】を  
つかう

【わ】がやへかえる

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
「わ」が家へ帰る	だいくさんは曲「じやく」をつかう	マンモスの「ほね」	おあつまりの「しよ」先生がた	松本城の天守「かく」	様子を表すことばを形容「し」という

六	五	四	三	二	一
「わ」が家へ帰る という	だいくさんは曲「じやく」をつかう	マンモスの「ほね」	松本城の天守「かく」	「わ」が家へ帰る	「し」が家へ帰る



1 作「詞」と作曲

2 内「閣」総理大臣

3 西インド「諸」島

4 魚の「骨」

5 一「尺」は約三十センチです

6 「我」を忘れる

--	--	--	--	--	--

一 さく「し」とさつきよく

二 ない「かく」そうりだいじん

三 にしインド「しよ」とう

四 さかなの「ほね」

五 いっ「しゃく」はやくさんじ  
ゆっセンチです

六 「われ」をわすれる

--	--	--	--	--	--

1 作「し」と作曲

二 内「かく」総理大臣

三 西インド「しよ」島

四 魚の「ほね」

五 一「しやく」は約三十センチ  
です

六 「われ」を忘れる

--	--	--	--	--	--

一 「しやく」は約三十センチ  
です

二 「われ」を忘れる

三 内「かく」総理大臣

四 魚の「ほね」

五 西インド「しよ」島

六 作「し」と作曲

--	--	--	--	--	--

月 日

六年

六	五	四	三	二	一
「我」流で勉強する	百メートルの巻「尺」	右手をスキーで「骨」折する	「諸」外国を旅行する	金「閣」寺	物や人などの名前を名「詞」という

六	五	四	三	二	一
「が」りゅうでべんきようする	ひやくメートルのまき「じやく」	みぎてをスキーで「こつ」せつする	「しよ」がいこくをりよこうする	きん「かく」じ	ものやひとなどのなまえをめい「し」という

1 物や人などの名前を名「し」という

二 金「かく」寺

三 「しよ」外国を旅行する

四 右手をスキーで「こつ」折する

五 百メートルの巻「じやく」

六 「が」流で勉強する

--	--	--	--	--	--

二十七集六 漢字を使って文章を作ろう

一 詞

二 閣

三 諸

四 骨

五 尺

六 我

--	--	--	--	--	--

1 意「欲」的に仕事をする

2 「郷」土の料理

3 借金を返「済」する

4 嚴重に「警」備する

5 ガソリンなどを「揮」発油と  
いう

6 綿「密」な計画を立てる

--	--	--	--	--	--

1 い「よく」てきにしごとをする

2 「きよう」どのりようり

3 しゃつきんをへん「さい」する

4 げんじゆうに「けい」びする

5 ガソリンなどを「き」はつゆ  
という

6 めん「みつ」なけいかくをた  
てる

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
綿「みつ」な計画を立てる	ガソリンなどを「き」発油と いう	嚴重に「けい」備する	借金を返「さい」する	「きょう」土の料理	意「よく」的に仕事をする

六	五	四	三	二	一
「きょう」土の料理	嚴重に「けい」備する	ガソリンなどを「き」発油と いう	綿「みつ」な計画を立てる	借金を返「さい」する	意「よく」的に仕事をする

1 収入おおからんと「欲」す

二 故「郷」に帰る

三 政治と経「済」

四 ダムの放水の「警」報

五 合唱の指「揮」をする

六 人口の「密」度が高い

--

--	--	--	--	--	--

一 しゅうにゅうおおからんと「ほつ」す

二 こ「きよう」にかえる

三 せいじとけい「ぎい」

四 ダムのほうすいの「けい」ほう

五 がっしょうのし「き」をする

六 じんこうの「みつ」どがたかい

--	--	--	--	--	--

1 収入おおからんと「ほつ」す

二 故「きよう」に帰る

三 政治と経「ざい」

四 ダムの放水の「けい」報

五 合唱の指「き」をする

六 人口の「みつ」度が高い

--	--	--	--	--	--

一 収入おおからんと「ほつ」す

二 政治と経「ざい」

三 人口の「みつ」度が高い

四 合唱の指「き」をする

五 ダムの放水の「けい」報

六 故「きよう」に帰る

--	--	--	--	--	--



1 自由な時間が「欲」しい

2 「郷」里の母から荷物がとどく

3 結婚式が「済」んだ

4 「警」戒色を持つ生き物

5 実力を発「揮」する

6 秘「密」のあっこちゃん

--	--	--	--	--	--

一 じゆうなじかんが「ほ」しい

二 「きょう」りのははからにもつがとどく

三 けこんしきが「す」んだ

四 「けい」かいしよくをもついきもの

五 じつりよくをはっ「き」する

六 ひ「みつ」のあっこちゃん

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
秘「みつ」のあっこちゃん	実力を発「き」する	「けい」戒色を持つ生き物	結婚式が「す」んだ	どく 「きょう」里の母から荷物がと	自由な時間が「ほ」しい

六	五	四	三	二	一
どく 「きょう」里の母から荷物が	「けい」戒色を持つ生き物	実力を発「き」する	秘「みつ」のあっこちゃん	結婚式が「す」んだ	自由な時間が「ほ」しい

1 花さかじいさんと「欲」張り  
じいさん

2 水「郷」へ旅する

3 難民を救「済」する

4 「警」察官の仕事

5 筆で書くことを「揮」ごうと  
いう

6 「密」林を探検する

六年

一 はなさかじいさんと「よく」  
ばりじいさん

二 すい「ごう」へたびする

三 なんみんをきゆう「さい」す  
る

四 「けい」さつかんのしごと

五 ふででかくことを「き」ごう  
という

六 「みつ」りんをたんけんする

--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--

1	花さかじいさんと「よく」張 りじいさん	2	水「ごう」へ旅する	3	難民を救「さい」する	4	「けい」察官の仕事	5	筆で書くことを「き」ごうと いう	6	「みつ」林を探検する

一	花さかじいさんと「よく」張 りじいさん	二	難民を救「さい」する	三	「みつ」林を探検する	四	筆で書くことを「き」ごうと いう	五	「けい」察官の仕事	六	水「ごう」へ旅する

1 意「欲」的に仕事をする

2 「郷」土の料理

3 借金を返「済」する

4 嚴重に「警」備する

5 ガソリンなどを「揮」発油と  
いう

6 綿「密」な計画を立てる

--	--	--	--	--	--

一 い「よく」てきにしごとをする

二 「きよう」どのりようり

三 しゃつきんをへん「さい」する

四 げんじゆうに「けい」びする

五 ガソリンなどを「き」はつゆ  
という

六 めん「みつ」なけいかくをた  
てる

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
綿「みつ」な計画を立てる	ガソリンなどを「き」発油と いう	嚴重に「けい」備する	借金を返「さい」する	「きょう」土の料理	意「よく」的に仕事をする

六	五	四	三	二	一
「きょう」土の料理	嚴重に「けい」備する	ガソリンなどを「き」発油と いう	綿「みつ」な計画を立てる	借金を返「さい」する	意「よく」的に仕事をする

1 収入おおからんと「欲」す

二 故「郷」に帰る

三 政治と経「済」

四 ダムの放水の「警」報

五 合唱の指「揮」をする

六 人口の「密」度が高い

--	--	--	--	--	--

一 しゅうにゅうおおからんと「ほつ」す

二 こ「きよう」にかえる

三 せいじとけい「ぎい」

四 ダムのほうすいの「けい」ほう

五 がっしょうのし「き」をする

六 じんこうの「みつ」どがたかい

--	--	--	--	--	--

1 収入おおからんと「ほつ」す

二 故「きよう」に帰る

三 政治と経「ざい」

四 ダムの放水の「けい」報

五 合唱の指「き」をする

六 人口の「みつ」度が高い

--	--	--	--	--	--

二十八集六 漢字を使って  
文章を作ろう

一 欲

二 郷

三 濟

四 警

五 揮

六 密

--	--	--	--	--	--



1 世界の首「脳」会談が開かれ  
る

二 興「奮」してプロレスの観戦を  
する

三 「秘」密の宝

四 「推」理小説を読む

五 「難」解な問題

六 穴「蔵」の中で生活する

--	--	--	--	--	--

一 せかいのしゅ「のう」かいだ  
んがひらかれる

二 こう「ふん」してプロレスの  
かんせんをする

三 「ひ」みつのたから

四 「すい」りしょうせつをよむ

五 「なん」かいなもんだい

六 あな「ぐら」のなかでせい  
かつする

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
穴「ぐら」の中で生活する	「なん」解な問題	「すい」理小説を読む	「ひ」密の宝	興「ふん」してプロレスの観戦をする	世界の首「のう」会談が開かれる

六	五	四	三	二	一
「すい」理小説を読む	「なん」解な問題	「ひ」密の宝	穴「ぐら」の中で生活する	世界の首「のう」会談が開かれる	興「ふん」してプロレスの観戦をする

--

--	--	--	--	--	--

1  
すばらしい頭「脳」をもつて  
いる

二  
ごちそうを「奮」発する

三  
「秘」伝の味付け

四  
研究を「推」進する

五  
旅先で災「難」にあう

六  
冷「蔵」庫の氷

--	--	--	--	--	--

一  
すばらしい「のう」をもつ  
ている

二  
ごちそうを「ふん」ぱつする

三  
「ひ」でんのおじつけ

四  
けんきゆうを「すい」しんす  
る

五  
たびさきでさい「なん」にあ  
う

六  
れい「ぞう」このこおり

六	五	四	三	二	一
冷「ぞう」庫の氷	旅先で災「なん」にあう	研究を「すい」進する	「ひ」伝の味付け	ごちそうを「ふん」発する	すばらしい頭「のう」をもつ ている

六	五	四	三	二	一
研究を「すい」進する	旅先で災「なん」にあう	「ひ」伝の味付け	冷「ぞう」庫の氷	すばらしい頭「のう」をもつ ている	ごちそうを「ふん」発する

1 生け花の流 [派]

二 勇気を [奮] い起こす

三 心に [秘] めた思い出

四 学級の代表に [推] す

五 [難] しい漢字を練習する

六 問題を内 [蔵] している

--	--	--	--	--	--

一 いけばなのりゆう [は]

二 ゆうきを [ふる] い起こす

三 心に [ひ] めたおもいで

四 がつきゅうのだいひょうに [お] す

五 [む] ずか [しい] かんじをれんしゅうする

六 もんだいをない [ぞう] している

--	--	--	--	--	--

1 生け花の流「は」

二 勇気を「ふる」い起こす

三 心に「ひ」めた思い出

四 学級の代表に「お」す

五 「むずか」しい漢字を練習す  
る

六 問題を内「ぞう」している

--	--	--	--	--	--

一 勇気を「ふる」い起こす

二 生け花の流「は」

三 問題を内「ぞう」している

四 心に「ひ」めた思い出

五 「むずか」しい漢字を練習す  
る

六 学級の代表に「お」す

--	--	--	--	--	--

1 「脳」は再生するの

2 最後まで「奮」戦する

3 「秘」密の花園

4 回りの様子から「推」しはか  
る

5 交渉が「難」航する

6 宝の入っている「蔵」

--	--	--	--	--	--

一 「のう」はさいせいするの

二 さいごまで「ふん」せんする

三 「ひ」みつのはなぞの

四 まわりのようすから「お」し  
はかる

五 こうしょうが「なん」こうする

六 たからのはいつている「くら」

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
宝の入っている「くら	交渉が「なん」航する	回りの様子から「お」しはか る	「ひ」密の花園	最後まで「ふん」戦する	「のう」は再生するの

六	五	四	三	二	一
回りの様子から「お」しはか る	交渉が「なん」航する	「ひ」密の花園	宝の入っている「くら	「のう」は再生するの	最後まで「ふん」戦する



六 五 四 三 二 一

世界の首「脳」会談が開かれ  
る

興「奮」してプロレスの観戦を  
する

「秘」密の宝

「推」理小説を読む

「難」解な問題

穴「蔵」の中で生活する

--	--	--	--	--	--

六 五 四 三 二 一

せかいのしゅ「のう」かいだ  
んがひらかれる

こう「ふん」してプロレスの  
かんせんをする

「ひ」みつのたから

「すい」りしようせつをよむ

「なん」かいなもんだい

あな「ぐら」のなかでせい  
か つする

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
穴「ぐら」の中で生活する	「なん」解な問題	「すい」理小説を読む	「ひ」密の宝	興「ふん」してプロレスの観戦をする	世界の首「のう」会談が開かれる

六	五	四	三	二	一
「すい」理小説を読む	「なん」解な問題	「ひ」密の宝	穴「ぐら」の中で生活する	世界の首「のう」会談が開かれる	興「ふん」してプロレスの観戦をする

1  
すばらしい頭「脳」をもつて  
いる

二  
ごちそうを「奮」発する

三  
「秘」伝の味付け

四  
研究を「推」進する

五  
旅先で災「難」にあう

六  
冷「蔵」庫の氷

--	--	--	--	--	--

一  
すばらしいず「のう」をもつ  
ている

二  
ごちそうを「ふん」ぱつする

三  
「ひ」でんのおじつけ

四  
けんきゆうを「すい」しんす  
る

五  
たびさきでさい「なん」にあ  
う

六  
れい「ぞう」このこおり

--	--	--	--	--	--

1  
すばらしい頭「のう」をもつ  
ている

二  
ごちそうを「ふん」発する

三  
「ひ」伝の味付け

四  
研究を「すい」進する

五  
旅先で災「なん」にあう

六  
冷「ぞう」庫の氷

--	--	--	--	--	--

二十九集六 漢字を使って  
文章を作ろう

一  
脳

二  
奮

三  
秘

四  
推

五  
難

六  
蔵

--	--	--	--	--	--

1 詩を「朗」読する

二 ジャングルを「探」検する

三 「沿」岸漁業

四 「磁」力線の単位はガウスで  
す

五 「郵」便を出す

六 交通事故の対「策」

--	--	--	--	--	--

一 しを「ろう」どくする

二 ジャングルを「たん」けんす  
る

三 「えん」がんぎよぎよう

四 「じ」りよくせんのだんいは  
ガウスです

五 「ゆう」びんをだす

六 こうつうじこのたい「さく」

--	--	--	--	--	--

1 詩を「ろう」読する

2 ジャングルを「たん」検する

3 「えん」岸漁業

4 「じ」力線の単位はガウスで  
す

5 「ゆう」便を出す

6 交通事故の対「さく」

一 詩を「ろう」読する

二 交通事故の対「さく」

三 ジャングルを「たん」検する

四 「ゆう」便を出す

五 「じ」力線の単位はガウスで  
す

六 「えん」岸漁業

1 明 [朗] な青年

二 宝 [探] し

三 私鉄の [沿] 線

四 「磁」 石でスチール缶を選別  
する

五 郵 [便] を配達する

六 政党が政 [策] を発表する

--	--	--	--	--	--

一 めい [ろう] なせいねん

二 たから [さが] し

三 してつの [えん] せん

四 「じ」 しゃくでスチールかん  
をせんべつする

五 ゆう [びん] をはいたつする

六 せいとうがせい [さく] をは  
つぴようする

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
政党が政「さく」を發表する	「ゆう」便を配達する	「じ」石でスチール缶を選別する	私鉄の「えん」線	宝「さが」し	明「ろう」な青年

六	五	四	三	二	一
私鉄の「えん」線	「じ」石でスチール缶を選別する	「ゆう」便を配達する	宝「さが」し	政党が政「さく」を發表する	明「ろう」な青年



1 「朗」らかな歌声

二 電波 「探」知機

三 川に 「沿」って走る

四 九谷焼きなどを 「磁」器とい  
います

五 昔の 「郵」便局

六 敵の矢 「策」にじようずる

--	--	--	--	--	--

一 「ほが」らかなうたごえ

二 でんぱ 「たん」ちき

三 かわに 「そ」ってはしる

四 ぐたにやきなどを 「じ」きと  
いいます

五 むかしのゆう 「びん」きよく

六 てきのしつ 「さく」にじよう  
ずる

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
敵の失「さく」にじようずる	昔の「ゆう」便局	九谷焼きなどを「じ」器とい います	川に「そ」って走る	電波「たん」知機	「ほが」らかな歌声

六	五	四	三	二	一
川に「そ」って走る	九谷焼きなどを「じ」器とい います	昔の「ゆう」便局	電波「たん」知機	敵の失「さく」にじようずる	「ほが」らかな歌声

1 詩の「朗」読

二 手「探」りで進む

三 谷「沿」いに家がたっている

四 「磁」石は鉄を引き付ける

五 「郵」便切手を集める

六 別の方「策」をたてる

--	--	--	--	--	--

一 しの「ろう」どく

二 て「さぐ」りですすむ

三 たに「ぞ」いにいえがたっている

四 「じ」しゃくはてつをひきつける

五 「ゆう」びんきつてをあつめる

六 べつのほう「さく」をたてる

--	--	--	--	--	--

1 詩の「ろう」読

二 手「さぐ」りで進む

三 谷「ぞ」いに家がたっている

四 「じ」石は鉄を引き付ける

五 「ゆう」便切手を集める

六 別の方「さく」をたてる

--	--	--	--	--	--

一 詩の「ろう」読

二 別の方「さく」をたてる

三 手「さぐ」りで進む

四 「ゆう」便切手を集める

五 「じ」石は鉄を引き付ける

六 谷「ぞ」いに家がたっている

--	--	--	--	--	--

1 詩を「朗」読する

二 ジャングルを「探」検する

三 「沿」岸漁業

四 「磁」力線の単位はガウスで  
す

五 「郵」便を出す

六 交通事故の対「策」

--	--	--	--	--	--

一 しを「ろう」どくする

二 ジャングルを「たん」けんす  
る

三 「えん」がんぎよぎよう

四 「じ」りよくせんのだんいは  
ガウスです

五 「ゆう」びんをだす

六 こうつうじこのたい「さく」

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
交通事故の対「さく」	「ゆう」便を出す	す 「じ」力線の単位はガウスで	「えん」岸漁業	ジャングルを「たん」検する	詩を「ろう」読する

六	五	四	三	二	一
「えん」岸漁業	す 「じ」力線の単位はガウスで	「ゆう」便を出す	ジャングルを「たん」検する	交通事故の対「さく」	詩を「ろう」読する

1 明「朗」な青年

二 宝「探」し

三 私鉄の「沿」線

四 「磁」石でスチール缶を選別する

五 郵「便」を配達する

六 政党が政「策」を発表する

--	--	--	--	--	--

一 めい「ろう」なせいねん

二 たから「さが」し

三 してつの「えん」せん

四 「じ」しゃくでスチールかんをせんべつする

五 ゆう「びん」をはいたつする

六 せいとうがせい「さく」をはつぴようする

--	--	--	--	--	--

1 明「ろう」な青年

二 宝「さが」し

三 私鉄の「えん」線

四 「じ」石でスチール缶を選別する

五 「ゆう」便を配達する

六 政党が政「さく」を発表する

--	--	--	--	--	--

三十集六 漢字を使って文章を作ろう

一 朗

二 探

三 沿

四 磁

五 郵

六 策

--	--	--	--	--	--



月 日

三十一集一 漢字を書こう

六年

1 消防「署」の「署」長

二 「衆」議院で法律を決める

三 心「臓」が高なる

四 野球部の主「将」

五 頭「痛」に悩まされる

六 野菜を「洗」う

--	--	--	--	--	--

三十一集一 練習一

一 しょうぼうしよの「しよ」ち  
よう

二 「しゅう」ぎいでほうりつ  
をきめる

三 しん「ぞう」がたかなる

四 やきゅうぶのしゅ「しょう」

五 ず「つう」になやまされる

六 やさいを「あら」う

--	--	--	--	--	--

1 消防「しよ」のしよ長

二 「しゅう」議院で法律を決める

三 心「ぞう」が高なる

四 野球部の主「しよ」

五 頭「つう」に悩まされる

六 野菜を「あら」う

--	--	--	--	--	--

一 消防「しよ」のしよ長

二 心「ぞう」が高なる

三 野菜を「あら」う

四 野球部の主「しよ」

五 「しゅう」議院で法律を決める

六 頭「つう」に悩まされる

--	--	--	--	--	--

1 税務〔署〕に税金を納める

二 〔衆〕知を集めて計画する

三 動物の内〔臓〕は栄養がある

四 敵の〔将〕軍

五 頭「痛」の縦棒はつきぬける

六 手をよく〔洗〕う

--	--	--	--	--	--

一 せいむ「しよ」にせいきんをおさめる

二 「しゅう」ちをあつめてけいかくする

三 どうぶつのない「ぞう」はえいようがある

四 てきの「しよ」ぐん

五 ず「つう」のたてぼうはつきぬける

六 てをよく「あら」う

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
手をよく 「あらう」	頭「つう」の縦棒はつきぬける	敵の「しょう」軍	動物の内「ぞう」は栄養がある	「しゅう」知を集めて計画する	税務「しよ」に税金を納める

六	五	四	三	二	一
頭「つう」の縦棒はつきぬける	「しゅう」知を集めて計画する	敵の「しょう」軍	手をよく「あらう」	動物の内「ぞう」は栄養がある	税務「しよ」に税金を納める

1 警察[署]

二 公[衆] 電話

三 魚の[臓] 物を取りさる

四 「将」 来の夢

五 虫歯が[痛] い

六 合成[洗] 剤をつかう

--	--	--	--	--	--

一 けいさつ[しよ]

二 こう[しゅう] でんわ

三 さかなの[ぞう] もつを取り  
さる

四 「しよ」 らいのゆめ

五 むしばが[いた] い

六 とうせい  
ごうせい[せん] ざいをつか  
う

--	--	--	--	--	--

1 警察「しよ」

二 公「しゅう」電話

三 魚の「ぞう」物をとるさる

四 「しよ」来の夢

五 虫歯が「いた」い

六 合成「せん」剤をつかう

--	--	--	--	--	--

一 警察「しよ」

二 魚の「ぞう」物をとるさる

三 合成「せん」剤をつかう

四 「しよ」来の夢

五 公「しゅう」電話

六 虫歯が「いた」い

--	--	--	--	--	--

1 「署」名する

二 大勢の観「衆」のまえで演技する

三 心「臓」は血液を送り出します

四 柔道部の主「将」

五 心臓が「痛」い

六 協会で「洗」礼をうける

--	--	--	--	--	--

一 「しよ」めいする

二 おおぜいのかん「しゅう」のまえでえんぎする

三 しん「ぞう」はけつえきをおくりだします

四 じゅうどうぶのしゆ「しよう」

五 しんぞうが「いた」い

六 きようかいで「せん」れいをうける

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
協会 で「せん」 礼をうける	心臓が 「いた」 い	柔道部の主 「しょう」	心「ぞう」 は血液を送り出 します	大勢の観 「しゅう」のま えで演 技する	「しよ」 名する

六	五	四	三	二	一
心臓が 「いた」 い	大勢の観 「しゅう」のま えで 演技する	柔道部の主 「しょう」	協会 で「せん」 礼をうける	心「ぞう」 は血液を送り出 します	「しよ」 名する



1 消防「署」の「署」長

二 「衆」議院で法律を決める

三 心「臓」が高なる

四 野球部の主「将」

五 頭「痛」に悩まされる

六 野菜を「洗」う

六年
----

--	--	--	--	--	--

一 しょうぼうしよの「しよ」ち  
よう

二 「しゅう」ぎいでほうりつ  
をきめる

三 しん「ぞう」がたかなる

四 やきゅうぶのしゅ「しょう」

五 ず「つう」になやまされる

六 やさいを「あら」う

--	--	--	--	--	--

1 消防「しよ」のしよ長

二 「しゅう」議院で法律を決める

三 心「ぞう」が高なる

四 野球部の主「しよ」

五 頭「つう」に悩まされる

六 野菜を「あら」う

--	--	--	--	--	--

一 消防「しよ」のしよ長

二 心「ぞう」が高なる

三 野菜を「あら」う

四 野球部の主「しよ」

五 「しゅう」議院で法律を決める

六 頭「つう」に悩まされる

--	--	--	--	--	--

--

--	--	--	--	--	--

1 税務 [署] に税金を納める

二 [衆] 知を集めて計画する

三 動物の内 [臓] は栄養がある

四 敵の [将] 軍

五 頭「痛」の縦棒はつきぬける

六 手をよく [洗] う

--	--	--	--	--	--

一 せいむ [しよ] にぜいきんをおさめる

二 「しゅう」ちをあつめてけいかくする

三 どうぶつのない「ぞう」はえいようがある

四 てきの [しよ] ぐん

五 ず「つう」のたてぼうはつきぬける

六 てをよく [あら] う

六	五	四	三	二	一
手をよく 「あらう	頭「つう」の縦棒はつきぬける	敵の「しょう」軍	動物の内「ぞう」は栄養がある	「しゅう」知を集めて計画する	税務「しよ」に税金を納める

三十一集六 漢字を使って  
文章を作ろう

六	五	四	三	二	一
洗	痛	将	臓	衆	署

月 日

三十二集一 漢字を書こう

六年

1 窓を開 [閉] する

二 江戸時代の [銭]

三 今年 [降] 雪が多い

四 [模] 型飛行機を作る

五 野球で [優] 勝する

六 [難] 解な問題

--	--	--	--	--	--

三十二集一 練習一

一 まどをかい [へい] する

二 えどじだいの [ぜに]

三 ことしは [こう] せつがおお  
い

四 [も] けいひこうきをつくる

五 やきゆうで [ゆう] しょうす  
る

六 [なん] かいなもんだい

--	--	--	--	--	--

1 窓を開「へい」する

二 江戸時代の「ぜに」

三 今年は「こう」雪が多い

四 「も」型飛行機を作る

五 野球で「ゆう」勝する

六 「なん」解な問題

--	--	--	--	--	--

一 野球で「ゆう」勝する

二 江戸時代の「ぜに」

三 窓を開「へい」する

四 「も」型飛行機を作る

五 今年「こう」雪が多い

六 「なん」解な問題

--	--	--	--	--	--

1 店の「閉」 店時間は九時です

二 江戸時代の古「銭」

三 雨が「降」る

四 大規「模」なトンネル工事

五 役者のことを俳「優」という

六 旅先で災「難」にあう

六年
----

--	--	--	--	--	--

一 みせの「へい」てんじかんはくじです

二 えどじだいのこ「せん」

三 あめが「ふ」る

四 だいき「ぼ」なトンネルこうじ

五 やくしやのことをはい「ゆう」という

六 たびさきでさい「なん」にあう

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
旅先で災「なん」にあう	役者のことを俳「ゆう」とい う	大規「ぼ」なトンネル工事	雨が「ふる	江戸時代の古「せん」	店の「へい」店時間は九時で す

六	五	四	三	二	一
旅先で災「なん」にあう	雨が「ふる	大規「ぼ」なトンネル工事	店の「へい」店時間は九時で す	江戸時代の古「せん」	役者のことを俳「ゆう」とい う



1 ドアを「閉」める

2 戦前は百「銭」で一円でした

3 電車を「降」りる

4 「模」擬（ぎ）試験をうける

5 「優」しい人

6 「難」しい漢字を練習する

--	--	--	--	--	--

一 ドアを「し」める

二 せんぜんはひやく「せん」で  
いちえんでした

三 でんしやを「お」りる

四 「も」擬（ぎ）しけんをうけ  
る

五 「やさ」しいひと

六 「むずか」しいかんじをれん  
しゆうする

--	--	--	--	--	--

1 ドアを「し」める

二 戦前は百「せん」で一円でした

三 電車を「お」りる

四 「も」擬（ぎ）試験をうける

五 「やさ」しい人

六 「むずか」しい漢字を練習する

--	--	--	--	--	--

一 「やさ」しい人

二 戦前は百「せん」で一円でした

三 ドアを「し」める

四 「も」擬（ぎ）試験をうける

五 電車を「お」りる

六 「むずか」しい漢字を練習する

--	--	--	--	--	--

1 ふたを [閉] じる

二 小 [銭] を貯める

三 [降] 水量を量る

四 つばきの [模] 様の着物

五 気分が [優] れない

六 交渉が [難] 航する

--	--	--	--	--	--

一 ふたを [と] じる

二 こ [ぜに] をためる

三 [こう] すいりようをはかる

四 つばきの [も] ようのきもの

五 きぶんが [すぐ] れない

六 こうしょうが [なん] こうする

--	--	--	--	--	--

1 ふたを「と」じる

二 小「ぜに」を貯める

三 「こう」水量を量る

四 つばきの「も」様の着物

五 気分が「すぐ」れない

六 交渉が「なん」航する

--	--	--	--	--	--

一 気分が「すぐ」れない

二 小「ぜに」を貯める

三 ふたを「と」じる

四 つばきの「も」様の着物

五 「こう」水量を量る

六 交渉が「なん」航する

--	--	--	--	--	--

1 窓を開 [閉] する

二 江戸時代の [銭]

三 今年は [降] 雪が多い

四 [模] 型飛行機を作る

五 野球で [優] 勝する

六 [難] 解な問題

--	--	--	--	--	--

一 まどをかい [へい] する

二 えどじだいの [ぜに]

三 ことしは [こう] せつがおお  
い

四 [も] けいひこうきをつくる

五 やきゆうで [ゆう] しょうす  
る

六 [なん] かいなもんだい

--	--	--	--	--	--

1 窓を開「へい」する

二 江戸時代の「ぜに」

三 今年「こう」雪が多い

四 「も」型飛行機を作る

五 野球で「ゆう」勝する

六 「なん」解な問題

--	--	--	--	--	--

一 野球で「ゆう」勝する

二 江戸時代の「ぜに」

三 窓を開「へい」する

四 「も」型飛行機を作る

五 今年「こう」雪が多い

六 「なん」解な問題

--	--	--	--	--	--

1 店の「閉」店時間は九時です

二 江戸時代の古「銭」

三 雨が「降」る

四 大規「模」なトンネル工事

五 役者のことを俳「優」という

六 旅先で災「難」にあう

六年
----

--	--	--	--	--	--

一 みせの「へい」てんじかんはくじです

二 えどじだいのこ「せん」

三 あめが「ふ」る

四 だいき「ぼ」なトンネルこうじ

五 やくしやのことをはい「ゆう」という

六 たびさきでさい「なん」にあう

--	--	--	--	--	--

六	五	四	三	二	一
旅先で災「なん」にあう	役者のことを俳「ゆう」とい う	大規「ぼ」なトンネル工事	雨が「ふ」る	江戸時代の古「せん」	店の「へい」店時間は九時で す

三十二集六 漢字を使って  
文章を作ろう

六	五	四	三	二	一
難	優	模	降	銭	閉